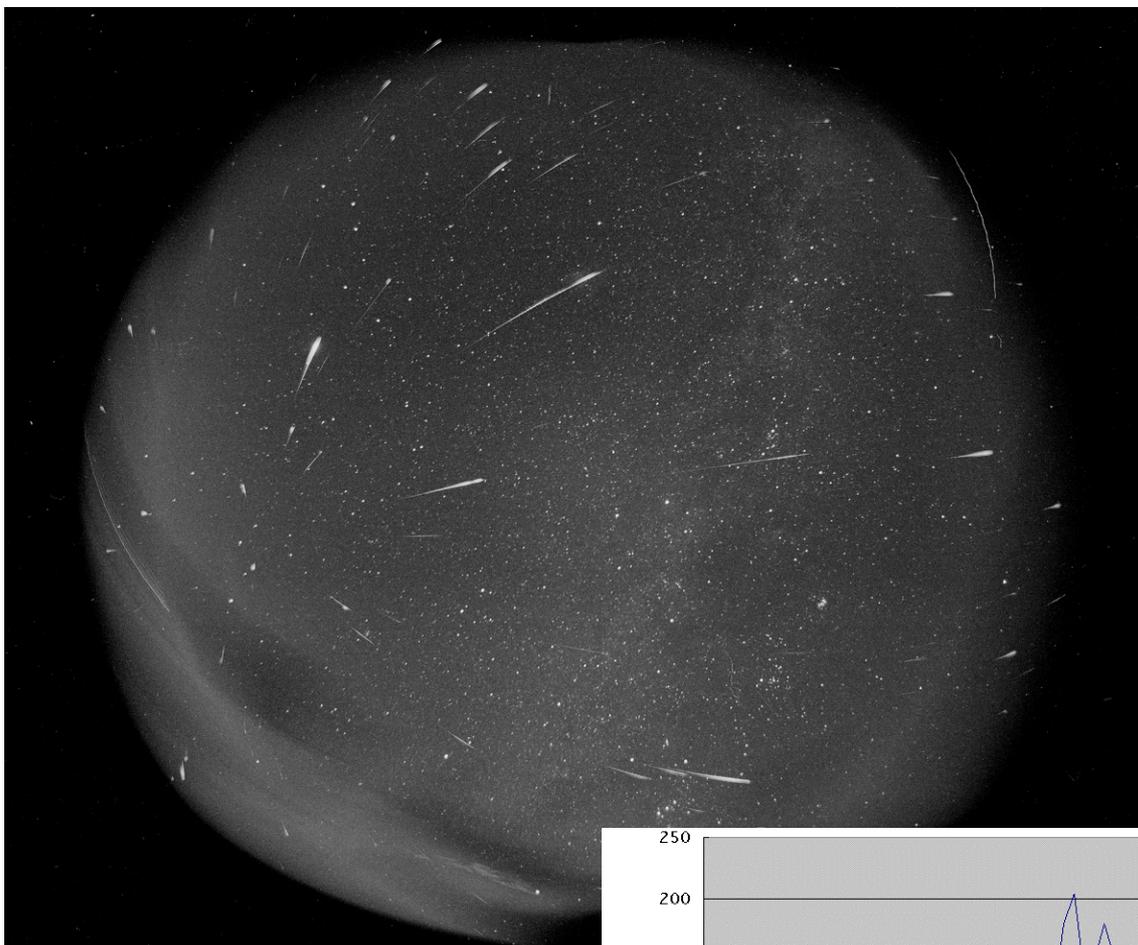


寄贈品コーナー 1999年2月16日(火)から3月31日(水)まで

しし座流星群

しし座流星群の結果報告など最近の天文現象から



スロバキアで撮影された流星slovak-fisheye

しし座流星群の結果

昨年11月18日のしし座流星群の観測結果が入ってきています。

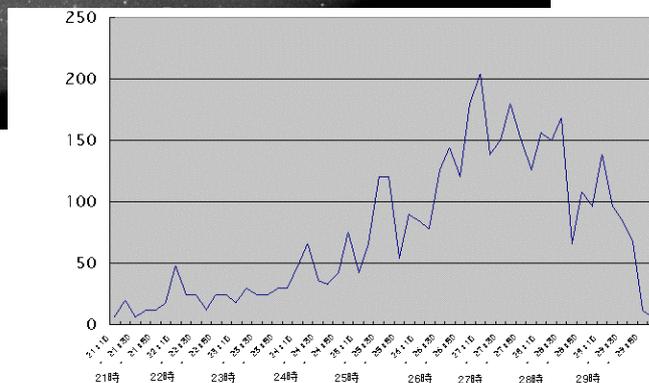
予想に反して日本や東アジアよりもヨーロッパ、南米で見られた流星の数のほうが多かったという結果が出てしまいました。予想よりも早くピークがきてしまったのが原因のようです。

写真はスロバキアで撮影された魚眼レンズによる長時間露出の写真です。流星がしし座(写真左側)から放射状に流れ出しているのがわかります。

日本では電波による流星観測などから、電波観測によると17日の午前2時頃から10時頃まで流星数が多く観測されていました。

天文甲子園

国内では、全国の高校生が同時に流星を観測して、流星の出現状況を調べようと、徹夜で観察をしました。その結果も集計され、発表されてきました。それによると、1時間当たりの修正平均で100以上の活発な出現は18日0時頃から5時過ぎまで続いたようです。



高校生が観測したしし群の出現数

4時13分の大流星

平塚でも多くの方が見られた、4時13分の大流星は、おそらく「世界一目撃者数の多かった流星」とも言えるでしょう。

多くの観測から概略の対地経路が日本流星研究会の関口孝志さんによって計算されました。それによると、発光点は千葉県館山市と静岡県伊東市を結ぶ線上のほぼ中間点の伊豆大島乳ヶ崎(大島の北端)の北約19kmの相模灘上空で、火球はここから西北西方向に飛行して沼津市市街地北部上空で消滅したことがわかりました。
発光点：東経139度23分 北緯34度58分 高度175km
最輝点：東経138度53分 北緯35度06分 高度86km
消滅点：東経138度51分 北緯35度07分 高度80km